コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ ガイド

Business PC

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ ガイド

Business PC

初版 2007 年 7 月

製品番号：451121-291

このガイドについて

このガイドでは、コンピュータ セットアップの使用方法について説明します。このツールは、新しいハードウェアを取り付けたときにコンピュータの初期設定を再構成および変更する場合や、メンテナンスを行う場合に使用します。

警告！ その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こすおそれがあるという警告事項を表します。

注意： その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こすおそれがあるという注意事項を表します。

注記： 重要な補足情報です。

目次

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティは、以下のような操作を行う場合に使用します。

- コンピュータの工場出荷時の設定の変更
- コンピュータ（リアルタイム クロック）の日付（Date）と時刻（Time）の設定
- システム構成（プロセッサ、グラフィックス（ビデオ）、メモリ、オーディオ、記憶装置、通信ポート、入力装置など）の表示、設定の変更、または確認
- 起動可能なデバイスの起動順序（Boot Order）の変更。起動可能なデバイスとして、ハードディスク ドライブ、ディスケット ドライブ、オプティカル ドライブ、USB フラッシュ メディア デバイスなどがあります。
- クイック ブート（Quick Boot）の有効化。クイック ブートでは、コンピュータをすばやく起動できますが、フル ブートで実行される診断テストの一部が省略されます。以下のように設定できます。
  - 常にクイック ブート（初期設定時）
  - 定期的にフル ブート（毎日～ 30 日まで指定可）
  - 常にフル ブート
- POST（Power-On Self Test）メッセージ（POST Message）の有効/無効の選択による、メッセージの表示状態の変更。非表示モードでは、メモリ カウント、製品名、エラーでないその他のテキスト メッセージなど、ほとんどの POST メッセージは表示されません。POST エラーが発生した場合には、選択した設定に関係なくエラー メッセージが表示されます。POST 実行中に非表示モードから表示モードに切り替えるには、F1 ～ F12 キー以外の任意のキーを押してください。
- オーナーシップ タグ（Ownership Tag）の設定。オーナーシップ タグを設定しておくと、システムを起動または再起動するたびにコンピュータの所有者に関する情報が画面上に表示されます。
- 会社によって割り当てられたアセット タグ（Asset Tag）または資産 ID 番号の設定
- システムの起動時だけではなく、再起動時の電源投入時パスワード入力画面の有効化
- セットアップ パスワード（Setup Password）の設定。セットアップ パスワードは、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ、およびこのガイドで説明する設定にアクセスする場合に使用します。
- シリアル ポート、USB ポート、パラレル ポート、オーディオ、内蔵 NIC（ネットワーク インタフェース コントローラ）などの内蔵 I/O 機能の使用禁止/許可の設定
- リムーバブル メディアからの起動（Removable Media Boot）の有効/無効の設定

- レガシー ディスケットの書き込み（Legacy Diskette Write）の禁止/許可の設定（ハードウェアでサポートされている場合）
- POST で検出されて自動修復できなかったシステム構成のエラーの解決
- リプリケート セットアップ機能の利用。コンピュータの設定情報をディスケットに保存し、その情報を使って複数のコンピュータを同じ設定にすることができます。
- 特定の ATA ハードディスク ドライブのセルフテストの実行（ドライブでサポートされている場合）
- ドライブロック セキュリティ（DriveLock Security）の有効/無効の設定（ドライブでサポートされている場合）

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの起動

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティには、コンピュータの電源を入れるか再起動することでのみアクセスできます。コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを起動するには、以下の手順で操作します。

1. コンピュータの電源を入れるか再起動します。Microsoft Windows をお使いの場合、**[スタート]**→**[終了オプション]**（または**[シャットダウン]**）→**[再起動]**の順に選択します。
2. コンピュータが起動してモニタ ランプが緑色に点灯したらすぐに F10 キーを押し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを実行します。必要であれば、Enter キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。

注記： 適切なタイミングで F10 キーを押せなかった場合は、コンピュータを再起動して、モニタ ランプが緑色に点灯したときにもう一度 F10 キーを押します。

3. 使用言語を一覧から選択し、Enter キーを押します。
4. **[コンピュータ セットアップ ユーティリティ]**のメイン画面から 5 つのメニュー （**[ファイル]**（File）、**[ストレージ]**（Storage）、**[セキュリティ]**（Security）、**[電源]**（Power）、**[カスタム]**（Advanced））を選択できます。
5. 左右の矢印キーでメニューを選択し、上下の矢印キーで項目を選んで Enter キーを押します。コンピュータ セットアップ ユーティリティのメニューに戻るには、Esc キーを押します。
6. 変更した設定を有効にして保存するには、**[ファイル]**→**[変更を保存して終了]**（Save Changes and Exit）の順に選択します。
   - 変更した設定を破棄したい場合は、**[変更を保存しないで終了]**（Ignore Changes and Exit）を選択します。
   - 工場出荷時の設定値または以前保存した初期設定時の設定値（一部のモデルのみ）に戻す場合は、**[デフォルト値に設定して終了]**（Apply Defaults and Exit）を選択します。このオプションは、工場出荷時のシステムの初期値を復元します。

注意： CMOS の損傷を防ぐため、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでの変更が BIOS に保存されている最中に、コンピュータの電源を切らないでください。**[F10=Setup]**画面の終了後にのみ、安全にコンピュータの電源を切ることができます。

表 1 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ

メニュー	表
ファイル（File）	3 ページの 表 2 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ファイル（File）」
ストレージ（Storage）	4 ページの 表 3 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ストレージ（Storage）」

表 1 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ (続き)

セキュリティ（Security）	6 ページの 表 4「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：セキュリティ（Security）」
電源（Power）	9 ページの 表 5「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：電源（Power）」
カスタム（Advanced）	10 ページの 表 6「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：カスタム（Advanced）（上級ユーザ向け）」

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ファイル（File）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 2 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ファイル（File）

項目	説明
システム情報（System Information）	次の項目を表示します ● 製品名（Product Name） ● SKU 番号（SKU Number）（一部のモデルのみ） ● プロセッサ タイプ/速度/ステッピング（Processor Type/Speed/Stepping） ● キャッシュ サイズ（Cache Size）（L1/L2）：デュアル コア プロセッサの場合は、キャッシュ サイズの一覧が 2 つ表示されます ● 取り付けられているメモリのサイズ/処理速度、チャンネルの数（シングルまたはデュアル）（必要に応じて） ● 内蔵の有効な NIC 用の内蔵 MAC アドレス（Integrated MAC）（必要に応じて） ● システム BIOS（System BIOS）（システム ファミリの名前とバージョン） ● 本体シリアル番号（Chassis Serial Number） ● アセット タグ（Asset Tracking Number） ● ME ファームウェア バージョン（ME Firmware Version） ● ME 管理モード（ME Management Mode）
バージョン情報（About）	著作権情報を表示します
日付と時刻（Set Time and Date）	システムの時刻と日付を設定できます
フラッシュ システム ROM（Flash System ROM）	USB フラッシュ メディア デバイスまたは CD-ROM に収録された BIOS イメージ ファイルを使用してシステム ROM を更新できます
複製セットアップ（Replicated Setup）	**[リムーバブル メディアに保存]**（Save to Removable Media） フォーマットされた 1.44 MB ディスケット、USB メモリ、またはディスケットと同等のデバイス（ディスケット ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置）に、CMOS を含めたコンピュータの設定情報を保存します **[リムーバブル メディアから復元]**（Restore from Removable Media） ディスケット、USB メモリ、またはディスケットと同等のデバイスに保存されているシステム構成を復元します
デフォルト値の変更（Default Setup）	**[現在の設定をデフォルトとして保存]**（Save Current Settings as Default） 現在のシステム構成の設定を初期設定として保存します **[工場出荷時の設定をデフォルトとして復元]**（Restore Factory Settings as Default）

表 2 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ファイル（File） (続き)

	出荷時のシステム構成の設定を初期設定として復元します
デフォルト値に設定して終了（Apply Defaults and Exit）	現在選択されている初期設定を適用し、すべてのパスワード設定を消去します
変更を保存しないで終了（Ignore Changes and Exit）	変更した設定値を破棄し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを終了します
変更を保存して終了（Save Changes and Exit）	変更した設定値や初期設定を保存し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを終了します

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ストレージ（Storage）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 3 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ストレージ（Storage）

項目	説明
デバイス構成（Device Configuration）	取り付けられているストレージ デバイスのうち、BIOS で制御されるものをすべて表示します デバイスを選択すると、そのデバイスに関する詳細情報およびオプションが表示されます。次のような項目が表示されます **[ディスケット タイプ]**（Diskette Type）（レガシー ディスケットのみ） ディスケット ドライブで使用可能な最大容量のメディアの種類を示しますオプションには、3.5 インチ 1.44 MB、および 5.25 インチ 1.2 MB があります **[ドライブ エミュレーション]**（Drive Emulation） 特定のストレージ デバイスのドライブ エミュレーションの種類を選択できます （たとえば、Zip ドライブは、ディスケット エミュレーションを選択することで起動可能になります） **[エミュレーション タイプ]** ATAPI Zip ドライブ（ATAPI Zip drive）： ● なし（その他の各種ドライブとして処理） ● ディスケット（Diskette）（ディスケット ドライブとして処理） レガシー ディスケット（Legacy Diskette）：なし CD-ROM：なし ATAPI LS-120： ● なし（その他の各種ドライブとして処理） ● ディスケット（Diskette）（ディスケット ドライブとして処理） ハードディスク（Hard Disk） ● なし（BIOS データ アクセスを防止し、ブート デバイスとして無効にする） ● ハードディスク（Hard Disk）（ハードディスク ドライブとして処理） **[マルチセクタ転送]**（Multisector Transfers）（ATA ディスクのみ） マルチセクタの PIO 操作ごとに転送されるセクタ数を指定します。オプションには（デバイスの機能により）、無効（Disabled）、8、および 16 があります **[変換モード]**（Translation Mode）（ATA ディスクのみ）

表 3 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ストレージ（Storage）（続き）

	デバイスで使用する変換モードを選択します。これにより BIOS は、他のシステム上のパーティション分割およびフォーマットされたディスクにアクセスできます。これは、旧バージョンの UNIX（SCO UNIX バージョン 3.2 など）のユーザにとって必要な場合があります。オプションには、自動（Automatic）、ビットシフト（Bit-Shift）、LBA 支援（LBA Assisted）、ユーザ（User）、およびオフ（Off）があります 注意：　通常は、BIOS によって自動的に選択された変換モードは変更しないでください。選択された変換モードが、ディスクをパーティション分割およびフォーマットしたときにアクティブであった変換モードと互換性がないと、ディスク上のデータにアクセスできなくなります **[変換パラメータ]**（Translation Parameter）（ATA ディスクのみ） 注記：　この機能は変換モード（Translation Mode）にユーザ（User）が選択されているときにのみ表示されます パラメータ（論理シリンダ（Logical Cylinders）、ヘッド（Heads）、およびトラック当たりのセクタ数（Sectors Per Track））を指定できます。BIOS はこれを使用して（オペレーティング システムやアプリケーションからの）ディスク I/O 要求を、ハードディスク ドライブで受け入れ可能な様式に変換します。論理シリンダは 1024 を超えることはできません。ヘッド数は 256 を超えることはできません。トラック当たりのセクタ数は 63 を超えることはできません。これらのフィールドは、ドライブの変換モードが「ユーザ」に設定されているときにのみ、表示および変更できます **[SATA デフォルト値]**（SATA Default Values） マルチセクタ転送（Multisector Transfers）、転送モード（Transfer Mode）、および ATA デバイス用変換モードの初期設定値を指定します
ストレージ オプション（Storage Options）	**[リムーバブル メディアの起動]**（Removable Media Boot） リムーバブル メディアからシステムを起動する機能の有効（Enable）/無効（Disable）を設定します **[低速ディスケットの書き込み]**（Legacy Diskette Write） レガシー ディスケットにデータを書き込む機能の有効/無効を設定します 注記：　リムーバブル メディアの書き込みの変更を保存すると、コンピュータは再起動します。手動でコンピュータの電源を切ってから電源を入れてください **[SATA 構成]**（SATA Emulation） SATA コントローラおよびデバイスにオペレーティング システムからアクセスする方法を選択できます サポートされている 2 つのオプションは、 IDE と RAID です 初期設定時のオプションは IDE です。通常の（非 RAID）構成にするには、このオプションを使用します DOS および RAID ボリュームへのブート アクセスを有効にするには、RAID オプションを選択します。適切な RAID デバイス ドライバを搭載した Windows 2000、XP、または Vista 環境で RAID 構成にするには、このオプションを使用します 注記：　RAID ボリュームからブートを試みる前に、RAID デバイス ドライバをインストールする必要があります。必要な RAID デバイス ドライバをインストールしないで、RAID ボリュームからブートを試みると、システムがクラッシュします（ブルー スクリーンが表示されます）。また、搭載したハードディスク ドライブでドライブロック機能が有効になっている場合は、RAID オプションを選択しないでください。このようにすると、もう 1 つの**[SATA 構成]**モードが選択されるまで、ドライブがロックされたままになり後続のリブート中にアクセスできなくなります 注記：　SATA エミュレーションは USDT システムでは使用できません

表 3 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ストレージ（Storage）（続き）

DPS セルフテスト（DPS Self-Test）	DPS（Drive Protection System）セルフテスト機能を持つ ATA ハードディスク ドライブのセルフテストを実行します 注記：　この項目は、1 台以上の DPS セルフテスト機能を持つハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます
起動順序（Boot Order）	次の項目を設定します ● 接続されたデバイス（USB メモリ、ディスケット ドライブ、ハードディスク ドライブ、オプティカル ドライブ、ネットワーク インタフェース カードなど）に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。一覧上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできます ● 接続されたハードディスク ドライブの起動順序を指定します。最初のハードディスク ドライブは起動順序が優先され、C ドライブとして認識されます（他にデバイスが接続されている場合） 注記：　MS-DOS のドライブ名の割り当ては、MS-DOS 以外のオペレーティング システムが起動された後は、適用されない場合があります **[一時的に優先される起動順序へのショートカット]** 起動順序で指定した初期設定時のデバイス以外のデバイスから一度だけ起動するには、コンピュータを再起動し、モニタ ランプが緑色に点灯している間に F9 キーを押します。POST が完了すると、起動可能デバイスの一覧が表示されます。矢印キーを使って目的の起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。選択した初期設定以外のデバイスから、コンピュータが一度だけ起動されます

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：セキュリティ（Security）

注記：　コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：セキュリティ（Security）

項目	説明
セットアップ パスワード（Setup Password）	セットアップ（管理者）パスワードを設定して有効にします 注記：　セットアップ パスワードを設定すると、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの設定を変更したり、ROM をフラッシュしたり、Windows 環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にセットアップ パスワードが必要になります 詳しくは、『トラブルシューティング ガイド』を参照してください
電源投入時パスワード（Power-On Password）	電源投入時パスワードを設定して有効にします。再起動後に、電源投入時パスワードの入力画面が表示されます。ユーザが正しい電源投入時パスワードを入力しない場合は、装置は起動されません 注記：　下記の**[パスワード オプション]**で有効にしない限り、このパスワードはウォーム ブート（Ctrl ＋ Alt ＋ Delete または**[Windows から再起動]**（Restart from Windows））では表示されません 詳しくは、『トラブルシューティング ガイド』を参照してください
パスワード オプション（Password Options） （電源投入時パスワードまたはセットアップ パスワードが設定されている場合にのみ表示されます）	次の項目を設定します ● レガシー リソースのロック（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます） ● ネットワーク サーバ モードを有効/無効に設定します（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます） ● ウォーム ブート（Ctrl ＋ Alt ＋ Delete）にパスワードが必要かどうかを指定します（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます） ● 閲覧モードの設定を有効または無効に設定します（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます）（セットアップ パスワードを入力しない場合は、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティのオプションを表示できますが、変更はできません）

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：セキュリティ（Security）（続き）

	詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください
スマート カバー（Smart Cover）（一部のモデルのみ）	次の項目を設定します ● カバー ロック（Cover Lock）のロック（Lock）/アンロック（Unlock）の設定 ● カバー リムーバル センサの無効（Disable）/ユーザに通知（Notify User）/セットアップ パスワード（Setup Password）の設定 注記： **[ユーザに通知]**を設定すると、カバーが取り外されたことをセンサが検知したときにユーザに通知されます。**[セットアップ パスワード]**を設定すると、カバーが取り外されたことをセンサが検知した場合、コンピュータを起動する際にセットアップ パスワードの入力が要求されます 一部のモデルでのみサポートされます。詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください
デバイス セキュリティ（Device Security）	以下のデバイスに関する、デバイス有効（Device Available）/デバイス無効（Device Hidden）を設定できます ● シリアル ポート（Serial Port） ● パラレル ポート（Parallel Port） ● すべての USB ポート（All USB Ports） ● 前面の USB ポート（Front USB Port） ● システム オーディオ（System audio） ● ネットワーク コントローラ（Network Controller） ● レガシー ディスケット（Legacy Diskette） ● 内蔵セキュリティ デバイス（Embedded security device）（一部のモデルのみ） ● SATA 0 ● SATA 4（一部のモデルのみ） ● SATA 4（一部のモデルのみ） ● SATA 5（一部のモデルのみ）
ネットワーク サービス ブート（Network Service Boot）	ネットワーク サーバにインストールされたオペレーティング システムからコンピュータを起動する機能を有効（Enable）または無効（Disable）にします （NIC（LAN ボード）が搭載されているモデルのみで使用でき、ネットワーク コントローラが PCI 拡張カードであるか、システム ボードに組み込まれている必要があります）
システム ID（System ID）	次の項目を設定します ● アセット タグ（Asset Tag。18 バイトの ID）およびオーナーシップ タグ（Ownership Tag。POST 実行中に表示される 80 バイトの ID）の入力。詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください ● 本体シリアル番号（Chassis Serial Number）または UUID（Universal Unique Identifier）の入力。UUID は現在の本体シリアル番号が無効の場合にのみ更新できます（通常これらの識別（ID）番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます） ● キーボード（Keyboard Locale）の設定 英語用やドイツ語用などをシステム ID エントリに対して設定します
ドライブロック セキュリティ（DriveLock Security）	ハードディスク ドライブにマスタ パスワードまたはユーザ パスワードを割り当てたり、パスワードを変更したりします。この機能が有効の場合は、POST 実行中にどちらかの DriveLock パスワードを入力するよう求められます。どちらのパスワードも正常に入力されなかった場合は、次のコールド ブート シーケンスの間にどちらかのパスワードが入力されるまで、ハードディスク ドライブにはアクセスできません 注記： この項目は、DriveLock 機能をサポートする 1 台以上のハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます 詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：セキュリティ（Security）（続き）

システムのセキュリティ (System Security)（一部のモデルのみ：これらのオプションはハードウェア依存）	データ実行防止（Data Execution Prevention）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。OS のセキュリティの侵害を防止できます 仮想化技術（Virtualization Technology）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。プロセッサの仮想化機能を制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります I/O 仮想化技術（Virtualization Technology Directed I/O）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。チップセットの仮想化 DMA リマップ機能を制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります Trusted Execution Technology（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。仮想アプライアンスをサポートするために必要な基礎プロセッサおよびチップセット機能を制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。この機能を有効にするには、次の機能を有効に設定する必要があります ● 内蔵セキュリティ デバイスのサポート ● 仮想化技術（Virtualization Technology） ● I/O 仮想化技術（Virtualization Technology Directed I/O） 内蔵セキュリティ デバイスのサポート（Embedded Security Device Support）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。内蔵セキュリティ デバイスをアクティブ化および非アクティブ化できます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります **注記：** 内蔵セキュリティ デバイスを設定するには、セットアップ パスワードを設定する必要があります ● 工場出荷時設定へのリセット（Reset to Factory Settings）（一部のモデルのみ）：リセット（Reset）/リセットしない（Do not reset）に設定します。工場出荷時の初期値にリセットすると、すべてのセキュリティ キーが消去されます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります **注意：** 内蔵セキュリティ デバイスは、多くのセキュリティ スキームの重要なコンポーネントです。セキュリティ キーを消去すると、内蔵セキュリティ デバイスによって保護されているデータへのアクセスができなくなります。「工場出荷時設定へのリセット」を選択すると、重要なデータの損失につながる可能性があります ● 起動時の認証サポート（Power-on authentication support）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。内蔵セキュリティ デバイスを利用する電源投入時のパスワード認証スキームを制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります ● 認証資格情報のリセット（Reset authentication credentials）（一部のモデルのみ）：リセット（Reset）/リセットしない（Do not reset）に設定します。「リセット」を選択すると、電源投入時の認証サポートが無効になり、内蔵セキュリティ デバイスからの認証情報が消去されます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります OS による内蔵セキュリティ デバイス管理（OS management of Embedded Security Device）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、内蔵セキュリティ デバイスの OS による制御を制限できます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。このオプションを設定すると、内蔵セキュリティ デバイスの OS による制御を制限できます ● OS による内蔵セキュリティ デバイスのリセット（Reset of Embedded Security Device through OS）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、内蔵セキュリティ デバイスの工場出荷時設定へのリセットを要求する OS の機能を制限できます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります **注記：** このオプションを有効にするには、セットアップ パスワードを設定する必要があります 仮想アプライアンス（Virtual Appliance）の有効（Enable）/無効（Disable）。ハイパーバイザの検出された起動（Verified Launch）を制御します **注記：** 仮想アプライアンス オプションは、Trusted Execution Technology が有効に設定されていて VA 3.0 がインストールされている場合にのみ、使用できます

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：セキュリティ（Security）（続き）

	注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの**[デフォルト値に設定して終了]**（Apply Defaults and Exit）オプションは、仮想アプライアンスのインストール中には使用できません ● 仮想アプライアンス構成インタフェース（Virtual Appliance Configuration Interface）のロック（Lock）/ロック解除（Unlock）。VA 3.0 の構成インタフェースへのソフトウェアのアクセスを制御します スマート カード BIOS パスワード サポート（Smart Card BIOS Password Support）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、セットアップ パスワードおよび電源投入時パスワードの代わりに使用するスマート カードを有効/無効に設定できます。このオプションを設定するには、オプションが有効になる前に ProtectTools®内で追加の初期化を行う必要があります
セットアップのセキュリティ レベル（Setup Security Level）	アクセスが制限されているエンド ユーザが、セットアップ パスワードを知らなくても特定のセットアップ オプションを変更できる方法を提供します この機能を使用すると、管理者は重要なセットアップ オプションへの変更内容を柔軟に保護でき、ユーザはシステム設定を表示したり、重要ではないオプションを設定したりできます。管理者は、**[セットアップのセキュリティ レベル]**メニューを使用して、各セットアップ オプションにアクセス権を個別に指定します。初期設定時にはすべてのセットアップ オプションにセットアップ パスワードが割り当てられているため、任意のオプションを変更するには、ユーザは POST 実行中に正しいセットアップ パスワードを入力する必要があります。管理者が各項目を**[なし]**に設定した場合、不正なパスワードでセットアップにアクセスしているときにも、ユーザは特定のオプションを変更できます。電源投入時パスワードが有効な場合は、**[なし]**を選択すると、電源投入時パスワードで置き換えられます 注記： ユーザがセットアップ パスワードを知らなくてもセットアップにアクセスできるようにするには、**[閲覧モードの設定]**（Set Up Browse Mode）を有効に設定する必要があります

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：電源（Power）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 5 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：電源（Power）

項目	説明
OS 電源管理（OS Power Management）	● 実行時の電源管理（Runtime Power Management）：有効（Enable）/無効（Disable）この機能を有効に設定すると、その時点でロードされているソフトウェアがプロセッサの最大能力を必要としない場合に、特定のオペレーティング システムによりプロセッサ電圧および周波数が下がります ● アイドル状態での省電力（Idle Power Savings）：拡張（Extended）/標準（Normal）拡張に設定すると、プロセッサがアイドル状態のときに、特定のオペレーティング システムがプロセッサの電力消費量を下げるようにします ● ACPI S3 ハードディスクのリセット（ACPI S3 Hard Disk Reset） この機能を有効に設定すると、S3 スリープ状態からの復帰後オペレーティング システムが有効になる前に、ハードディスク ドライブがコマンドを受け付ける準備ができていることが BIOS により確認されます ● ACPI S3 PS2 マウス ウェイク アップ（ACPI S3 PS2 Mouse Wake Up） マウスを使用した S3 スリープ状態からの復帰の有効/無効を設定します ● USB デバイスによるシステムの復帰（USB Wake on Device Insertion）（一部のモデルのみ） この設定を有効に設定すると、USB デバイスを差し込むことでシステムがスタンバイから復帰します ● 各スリープ状態時のランプの点滅速度（Unique Sleep State Blink Rates）の有効（Enable）/無効（Disable）。システムがどのようなスリープ状態にあるかをユーザに視覚的に示します。各スリープ状態には、固有の点滅パターンがあります ◦ S0 ＝ランプが緑色に点灯します ◦ S3 ＝ 1 Hz（50 %のデューティ サイクル）で 3 回点滅した後、2 秒間休止します（緑色のランプ）。つまり、3 回の点滅と休止状態のサイクルが繰り返されます

表 5 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：電源（Power）（続き）

	◦ S4 ＝ 1 Hz（50 % のデューティ サイクル）で 4 回点滅した後、2 秒間休止します（緑色のランプ）。つまり、4 回の点滅と休止状態のサイクルが繰り返されます ◦ S5 ＝ランプが消灯します **注記：** この機能が無効な場合、S4 と S5 の両方でランプが消灯します。S1（サポートされていません）と S3 では、1 秒間に 1 回点滅します
ハードウェア パワー マネージメント（Hardware Power Management）	SATA の電源管理機能により、SATA バスまたはシリアル ATA パワー マネージメント（またはその両方）の有効（Enable）/無効（Disable）を設定します
温度（Thermal）	ファン休止モード（Fan idle mode） この棒グラフでファンの最低速度を制御します **注記：** この機能では、ファンの最低速度のみ変更できます。ファン自体は自動的に制御されます

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：カスタム（Advanced）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：カスタム（Advanced）（上級ユーザ向け）

項目	メニュー
電源投入時オプション（Power-On Options）	次の項目を設定します • POST モード（POST Mode）の設定：クイック ブート（QuickBoot）、フル ブート（FullBoot）、または 1 ～ 30 日毎にフルブート（FullBoot Every 1-30 Days） • POST メッセージ（POST Messages）の有効（Enable）/無効（Disable） • MEBx セットアップ プロンプト（MEBx Setup Prompt）の表示（Displayed）/非表示（Hidden）。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に**[CTRL+P = MEBx]**と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、Ctrl ＋ P を押すと、ME BIOS 拡張セットアップ ユーティリティにアクセスして、管理設定を構成できます • F9 プロンプト（F9 Prompt）の表示（Displayed）/非表示（Hidden）。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に**[F9 = Boot Menu]**と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F9 キーを押すと、**[Shortcut Boot [Order] Menu]** 画面が表示されます。詳しくは、**[ストレージ]**（Storage）→**[起動順序]**（Boot Order）の順に選択してください • F10 プロンプト（F10 Prompt）の表示（Displayed）/非表示（Hidden）。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に**[F10=Setup]**と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F10 キーを押すと、**[セットアップ]**（Setup）画面が表示されます • F11 プロンプト（F11 Prompt）の表示（Displayed）/非表示（Hidden）。この機能を表示に設定すると、POST 実行中に**[F11 = Recovery]**と表示されます。この機能を非表示に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F11 キーを押すと、HP Backup and Recovery パーティションからの起動が試みられます。詳しくは、工場出荷時リカバリの起動サポート（Factory Recovery Boot Support）の項目を参照してください • F12 プロンプト（F12 Prompt）の表示（Displayed）/非表示（Hidden）。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に**[F12 = Network]**と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F12 キーを押すと、ネットワークからのブートをシステムに強制します • 工場出荷時リカバリの起動サポート（Factory Recovery Boot Support）の有効（Enable）/無効（Disable）。この機能を有効に設定すると、HP Backup and Recovery ソフトウェアがインストールされ、起動ハードディスク ドライブ上にリカバリ パーティションが設定されているシステムで、POST 実行中に追加のプロンプト**[F11 = Recovery]**が表示されます。F11 キーを押すと、システムはリカバリ パーティションから起動し、HP Backup and Recovery を起

	動します。**[F11 = Recovery]**プロンプトは、F11 プロンプト（F11 Prompt）オプション（表示（Displayed）/非表示（Hidden））で非表示にできます（上記参照） ● オプション ROM プロンプト（Option ROM Prompt）の有効（Enable）/無効（Disable）。この機能を有効に設定すると、オプション ROM をロードする前に画面にメッセージが表示されます （この機能は一部のモデルでのみサポートされます） ● ウェイク オン LAN 電源コードの抜き差し後の電源状態（WOL After Power Loss）の有効（Enable）/無効（Disable）。このオプションを有効に設定すると、ウェイク オン LAN（WOL）機能を有効にするために、コンピュータの電源が切断された直後にコンピュータの電源がオンになります ● リモート ウェイクアップ ブート ソース（Remote Wakeup Boot Source）のリモート サーバ（Remote Server）/ローカル ハードディスク ドライブ（Local Hard Drive） ● 電源コードの抜き差し後の電源状態（After Power Loss）のオン（On）/オフ（Off）/以前の状態への復帰（Previous State）：次のように機能します ◦ オフ：コンピュータに電力が供給されても、コンピュータの電源は切れたままになります ◦ オン：コンピュータに電力が供給されると、すぐにコンピュータの電源がオンになります ◦ オン：コンピュータがスイッチ付き電源タップに接続されている場合は、電源タップのスイッチを使用してコンピュータの電源を入れることができます ◦ 以前の状態への復帰：コンピュータが電源から切断されたときに電源がオンになっていた場合、電源に接続しなおすとすぐにコンピュータの電源がオンになります 注記： 電源タップのスイッチを使ってコンピュータの電源を切る場合は、サスペンド/スリープ機能やリモート マネジメント機能を使用できません ● POST 遅延時間（POST Delay）：なし、5 秒、10 秒、15 秒、または 20 秒（None, 5, 10 15, or 20 seconds）。この機能を有効に設定すると、ユーザが指定した遅延時間が POST プロセスに追加されます。この遅延時間は、PCI カード上のハードディスクの回転が遅いために、POST が完了した時点でブートの準備ができていない場合に必要となります。また、POST 遅延時間を設定すると、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを開くために F10 キーを選択できる時間が長くなります ● CPUID の最大値を 3 に制限（Limit CPUID Maximum Value to 3） マイクロプロセッサから通知される CPUID 関数の数を制限します。Windows NT を起動するときはこの機能を有効に設定します
メモリ テストの実行（Execute Memory Test）（一部のモデルのみ）	コンピュータを再起動して、POST メモリ テストを実行します
BIOS 電源投入（BIOS Power-On）	オンボード システム デバイス（ディスケット コントローラ（Diskette Controller）、シリアル ポート（Serial Port）、パラレル ポート（Parallel Port）など）のリソースを設定したり無効に設定したりします
オンボード デバイス（Onboard Devices）	オンボード システム デバイス（ディスケット コントローラ（Diskette Controller）、シリアル ポート（Serial Port）、パラレル ポート（Parallel Port）など）のリソースを設定したり無効に設定したりします
PCI デバイス（PCI Devices）	● インストールされている PCI デバイスの一覧と IRQ の設定を表示します ● 各デバイスの IRQ 設定を変更したり、デバイスを無効（Disable）に設定したりできます。これらの設定は、ACPI 対応のオペレーティング システムには対応していません
PCI VGA コンフィグレーション（PCI VGA Configuration）	PCI ビデオ アダプタがシステムにインストールされている場合にのみ表示されます。VGA コントローラのブートまたはプライマリ VGA コントローラの設定を行います 注記： この項目を表示するには、**[カスタム]**（Advanced）→**[デバイス オプション]**（Device Options）の順に選択して内蔵ビデオを有効に設定し、**[変更を保存して終了]**（Save Changes and Exit）を選択する必要があります

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：カスタム（Advanced）（上級ユーザ向け） (続き)

バス オプション（Bus Options）	一部のモデルで、次の項目の有効（Enable）/無効（Disable）を設定します • PCI SERR#生成（PCI SERR# Generation） • PCI VGA パレット スヌーピング（PCI VGA Palette Snooping）PCI コンフィギュレーション スペースに VGA パレット スヌーピング ビットを設定します。2 つ以上のグラフィックス コントローラがインストールされている場合にのみ必要です

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：カスタム（Advanced）（上級ユーザ向け） (続き)

デバイス オプション（Device Options）	次の項目を設定します ● プリンタ モード（Printer Mode）の双方向（Bi-Directional）、EPP&＋ ECP（EPP ＋ ECP）、出力専用（Output Only） ● 電源投入時 Num Lock 状態（Num Lock state at Power-On）のオン（On）/オフ（Off） ● S5 ウェイク オン LAN の有効（Enable）/無効（Disable） ◦ オフ状態（S5）のときにウェイク オン LAN を無効にするには、左右の矢印キーを使用して**[カスタム]**（Advanced）→**[デバイス オプション]**（Device Options）メニューの順に選択し、**[S5 ウェイク オン LAN]**（S5 Wake on LAN）機能を**[無効]**（Disable）に設定します。この設定では、S5 のときのコンピュータの消費電力を最小にすることができます。サスペンドやハイバネーションからの Wake on LAN の実行には影響しませんが、ネットワーク経由で S5 から復帰することはできません。コンピュータの電源がオンの時には、ネットワーク接続の操作には影響しません ◦ ネットワーク接続が必要でない場合は、ネットワーク コントローラ（NIC）を完全に無効にするために左右の矢印キーを使用して**[セキュリティ]**（Security）→**[デバイス セキュリティ]**（Device Security）メニューの順に選択します。**[ネットワーク コントローラ]**（Network Controller）オプションを**[デバイス無効]**（Device Hidden）に設定します。これで、ネットワーク コントローラがオペレーティング システムから使用できなくなり、S5 のときのコンピュータの消費電力を抑えることができます ● プロセッサ キャッシュ（Processor Cache）の有効/無効 ● 内蔵ビデオ（Integrated Video）の有効（Enable）/無効（Disable）。内蔵ビデオと PCI Up ソリューション ビデオを同時に使用できるように設定します（一部のモデルのみ） 注記： 内蔵ビデオを有効に設定して変更を保存した後は、**[カスタム]**メニューの下に新しいメニュー項目が表示され、プライマリ VGA コントローラのビデオ デバイスを選択できるようになります PCI Express ビデオ カードを挿入すると、内蔵ビデオが自動的に無効になります。PCI Express ビデオがオンのときは、内蔵ビデオを無効に設定しておく必要があります ● マルチプロセッサ（Multi-Processor）の有効（Enable）/無効（Disable）。このオプションを使用すると、OS の下でマルチプロセッサのサポートを無効に設定できます ● 内蔵スピーカ（Internal Speaker）（一部のモデルのみ） 外付けスピーカの設定には影響しません ● モニタ トラッキング（Monitor Tracking）の有効/無効。モニタのアセット情報を BIOS に保存します ● NIC PXE オプション ROM のダウンロード（NIC PXE Option ROM Download）の有効/無効。BIOS に含まれている内蔵 NIC オプション ROM により、コンピュータの起動時にネットワーク経由で PXE サーバに接続できます。この機能は通常、共通イメージをハードディスク ドライブにダウンロードするときに使用します。NIC オプション ROM は DOS Compatibility Hole（DCH）領域と呼ばれる 1 MB 未満のメモリ領域に格納されます。メモリ領域には制限があります。この[F10]オプションを使用して内蔵 NIC オプション ROM のダウンロードを無効に設定できるため、追加の PCI カード用にオプション ROM 領域が必要な場合、提供する DCH 領域を増やすことができます。初期設定では NIC オプション ROM が有効に設定されています
AMT オプション（AMT Options）	次の項目を設定します ● SOL 文字エコー（SOL Character Echo）の有効（Enable）/無効（Disable）。一部のリモート コンソールはリモートから入力された文字を表示するため、その文字列が 2 回表示されることがあります（リモート入力時に 1 回、ローカル クライアント ビデオからのエコー バック時に 1 回）。このオプションを使用すると、リモート入力された文字列のローカル ビデオ ディスプレイへのエコーを SOL ターミナル エミュレータで抑制するように管理者が設定できます ● SOL のターミナル エミュレーション モード（SOL Terminal Emulation Mode）の有効（Enable）/無効（Disable）。VT100 端末のエミュレーションと ANSI SOL 端末のエミュレーションを選択します。SOL 端末エミュレーション モードは、リモート AMT リダイレクト操作中にのみアクティブ化されます。エミュレーション オプションを使用すると、管理者はコンソールに最も適したモードを選択できます

	● SOL ローカル キーボード（SOL Local Keyboard）の有効（Enable）/無効（Disable）。SOL セッション中にクライアント キーボードを有効または無効に設定します。リモート修復によっては、管理者の提供するリモート イメージをローカル クライアントが起動する機能が含まれる場合もあります。このオプションは、ローカル クライアントの操作が発生した場合にBIOSがローカル キーボードを有効/無効のどちらの状態にするかを決定します。ローカル キーボードが無効になっている場合、すべてのキーボード入力はリモート ソースからのみ受け付けられます ● AMT プロビジョニング強制解除（AMT Force Unprovision）の有効（Enable）/無効（Disable）。AMT 構成を強制的に工場出荷時の初期値に戻します。この機能を使用すると、MEBx ユーティリティを入力したり CMOS を消去したりしなくても、AMT をローカルにプロビジョン解除できます。AMT 構成オプションのみが、工場出荷時の設定に戻ります。ME 構成または非 AMT オプションに対する MEBx 変更はすべて、実行されません

構成の設定値の回復

この方法で復元する場合、**[システム構成の復元]**を実行する前に、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの**[リムーバブル メディアに保存]**（Save to Removable Media コマンドを実行する必要があります。（コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ファイル（File）の表で、3 ページの リムーバブル メディアに保存（Save to Removable Media）を参照してください。）

注記： コンピュータの構成を変更したら、その構成をディスケット、USB メモリ、またはディスケットと同等のデバイス（ディスケット ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置）に保存し、将来使用できるようにディスケットまたはデバイスを保管しておくことをおすすめします。

構成を復元するには、構成を保存したディスケット、USB メモリ、またはディスケットをエミュレートするその他の記憶装置を挿入し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの**[リムーバブル メディアから復元]**コマンドを実行します。（コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：ファイル（File）の表で、3 ページの リムーバブル メディアから復元（Restore from Removable Media）を参照してください。）